

# 羅針盤

第9号(通算260号)  
平成28年7月29日(金) 発行  
岡山県総合教育センター  
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

## アクティブ・ラーニングで取り組む情報活用能力の育成

情報活用能力調査(平成25年、文部科学省)の結果から、児童生徒が複数のウェブサイトを行き来しながら情報を比較し、目的に応じて情報を集めること、複数の収集した情報をいくつかのグループに分類することなどが苦手であることが明らかになりました。では、情報活用能力を育成するために、どのような授業づくりが必要でしょうか。「情報活用能力育成のために」(平成27年、文部科学省)に示されている指導改善のポイントの一部を紹介します。

### 情報活用能力育成のために

#### 必要とされる指導の一例

- 集めた情報の共通点や相違点を意識すること。
- 情報を可視化するために、表や図に整理すること。
- 整理する観点そのものを児童生徒が考えるようにすること。
- 児童生徒自身の経験と資料の中にある情報を区別すること。

## 情報活用能力育成のために必要とされる指導の例

### 小学校事例

(3年国語)

単元:「くらしと絵文字」

段落と段落のつながりに気をつけて説明文を読み、  
分かりやすい説明の仕方を考えてマークを紹介する説明文を書く

身の回りで見つけたマークをXチャート(4つに分類するための思考ツール)を使い、クラス全体で観点をもとに分類する。

- ・分類するには、観点が必要であることを意識させる。
- ・観点をもとに分類し、まとめごとに名前をつける。

観点をもとに個人で分類する。

最も気に入った分類の観点をを選び、選んだ理由を説明する。  
(全体、グループ)

選んだ理由を説明させる活動から、分類したことがどう役立つのかについての言葉やフレーズを導き出し板書する。

多様な分類の仕方があることに興味を持たせたい。

【21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために(平成27年3月、文部科学省)を参考に作成】



この事例では、児童生徒が必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力を育むことができます。このような学習活動は、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)の視点からの授業改善でも必要になってきます。

### ご案内

伝え合う授業でICT活用研修講座一育てよう情報活用能力一

日時:8月26日(金)9:30-16:15 会場:岡山県総合教育センター

【午前】思考ツールを活用した授業づくりについて(講演・演習)講師:鳴門教育大学 泰山 裕 先生

【午後】タブレット端末・思考ツールを活用した授業づくり演習

(担当・情報教育部)

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>